

千葉県	庭園名：千葉大学園芸学部キャンパス内 各種庭園
所在地	松戸市松戸648
指定等	—
概要：千葉県松戸市の南西端に位置する戸定ヶ丘に位置し、隣接する戸定邸（15代将軍徳川慶喜の実弟・昭武の別邸・重要文化財）とともに我が国の草創期の洋風庭園が展開している。キャンパス内にはイタリア式庭園、フランス式庭園、イギリス風景式庭園、ロックガーデンなどがあるが、これら庭園をはじめ、キャンパス全体の整備は、庭園実習を担当していた千葉大学園芸学部の歴代の教授陣が、学生実習などを行いながら整備・維持管理を進め、今日に至る。なお、キャンパス内は関係者以外立ち入り禁止だが、庭園見学を希望する方にむけて開放している。（5名以上の団体の場合は要申し込み）	
主な樹木： イタリア式庭園：80種もの樹種からなり、「園芸学校式混垣」とも呼ばれる世界最多の混垣を有する。 フランス式庭園：沈床庭園を取り囲むチャボヒバのトピアリーは樹高1m強の円筒形で、透かし剪定をしながら維持されてきた。また、南と北を仕切るトゲナシニセアカシアは明治44年日本で初めて庭園論を講義した千葉県立園芸学校初代校長がドイツから輸入した樹種である。フランス式庭園の西に位置するの講堂は庭園の軸線からずれているが、軸線を緩和するためにイタリアンサイプレスの対植が植栽されるとともに、樹高10mに近いミヤマガンショウが春を彩る。 イギリス風景式庭園：牧草地をイメージした広い芝生の中に際立つ巨大なクスノキや、ゲストハウス脇のサクラが庭園を彩る。	

庭園の特徴的な写真



フランス式庭園



イギリス風景式庭園



ゲストハウス脇のサクラ

長野県	庭園名：善光寺東公園
所在地	長野市長野元善町491
指定等	—
概要：善光寺東公園は、善光寺本堂の東側に位置し、参拝者が善光寺本堂を側面から眺めることができる緑豊かな園地である。明治初期には庭として存在していたが、明治15年(1882年)に太政官布達第16号により「長野公園」として開園した。園内は「池泉回遊式庭園」や「浄土式庭園」を参照したとみられる庭園構成と、現在の本堂再建時に土塁が造られた際、滝地区(現在の長野市上松2丁目)より奉納された松が元となったといわれるアカマツが特徴的である。	
主な樹木：アカマツ(園内中高木の4割弱を占める) その他にケヤキ、ウメ、アンズ、サザンカなど 長野市中心市街地において、これほどアカマツが林立する緑空間は他になく、長年の維持管理により受け継がれてきた貴重な景観である。近年、アカマツの樹勢衰退や倒木が発生したことを受け、善光寺ではアカマツの樹勢回復及び東公園内の樹木の生育環境改善に向けた取組を進めている。	
庭園の特徴的な写真	主な樹木  善光寺東公園を代表するアカマツ

執筆者 亀山 涼